

平成 28 年度
日本商工会議所

第145回

簿記検定試験

3 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

れっく LEC 東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド
(C) 2017 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。
有効期限 2017年2月26日/2017年6月10日



0 000212 171536

BL17153

第 145 回 解 答

第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	旅 費 交 通 費 資 本 金	60,000 20,000	普 通 預 金	80,000
2	他 店 商 品 券 商 品 券	10,000 2,000	売 上	12,000
3	当 座 預 金 手 形 売 却 損	798,560 1,440	受 取 手 形	800,000
4	土 地	19,650,000	未 払 金 現 金	19,250,000 400,000
5	所 得 税 預 り 金	2,000,000	現 金	2,000,000

仕訳 1 組につき 4 点である。

第 2 問 (10 点)

①	②	③	④	⑤
9,000	26,000	損益	次期繰越	8,000

各 2 点である。

第 3 問 (30 点)

試 算 表

借		方		勘 定 科 目	貸		方	
12月31日の 合 計	12月中の 取 引 高	11月30日の 合 計			11月30日の 合 計	12月中の 取 引 高	12月31日の 合 計	
★ 950,650	2,000	948,650		現 金	413,250	35,000	448,250	
★ 15,087,300	640,000	14,447,300		当 座 預 金	8,799,500	551,100	9,350,600	
★ 3190,000	90,000	3,100,000		受 取 手 形	2,300,000	190,000	2,490,000	
★ 7,059,400	312,000	6,747,400		売 掛 金	4,197,400	210,000	4,407,400	
513,000		513,000		前 払 金	243,000	70,000	313,000	
130,000	30,000	100,000		仮 払 金	100,000	30,000	130,000	
623,000		623,000		繰 越 商 品				
2,400,000		2,400,000		備 品				
2,240,000	140,000	2,100,000		支 払 手 形	2,850,000	90,000	2,940,000	
★ 6,926,100	90,000	6,836,100		買 掛 金	7,488,800	380,000	7,868,800	
1,007,000	79,000	928,000		未 払 金	1,807,000		1,807,000	
152,000		152,000		所 得 税 預 り 金	274,100	30,000	304,100	
★ 50,000	50,000			貸 倒 引 当 金	60,000		60,000	
				減 価 償 却 累 計 額	1,600,000		1,600,000	
				資 本 金	8,000,000		8,000,000	
★ 10,000	10,000			売 上	9,577,000	700,000	10,277,000	
★ 5,597,300	451,000	5,146,300		仕 入	50,000		50,000	
3,041,000	300,000	2,741,000		給 料				
402,800	40,000	362,800		水 道 光 熱 費				
★ 237,600	21,600	216,000		支 払 家 賃				
★ 27,000	2,000	25,000		発 送 費				
208,000	28,000	180,000		旅 費 交 通 費				
194,000	500	193,500		通 信 費				
50,046,150	2,286,100	47,760,050			47,760,050	2,286,100	50,046,150	

★の行につき3点である。

第 4 問 (8 点)

①	②	③	④
イ	オ	ク	ア

各 2 点である。

第145回 解答

第5問 (32点)

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	800,000						800,000	
現金過不足	35,000			35,000				
普通預金	1,100,000		40,000				1,140,000	
売掛金	590,000			40,000			550,000	
有価証券	450,000			450,000				
繰越商品	370,000		340,000	370,000			340,000	
貸付金	500,000						500,000	
備品	1,200,000						1,200,000	
土地	510,000						510,000	
買掛金		500,000						500,000
仮受金		30,000	30,000					
貸倒引当金		7,000		4,000				11,000
備品減価償却累計額		900,000		150,000				1,050,000
資本金		4,003,800						4,003,800
売上		3,700,000				3,700,000		
受取地代		44,200	3,400			40,800		
受取利息		15,000		3,750		18,750		
受取配当金		20,000				20,000		
仕入	2,960,000		370,000	340,000	2,990,000			
給料	550,000		10,000		560,000			
支払保険料	30,000				30,000			
支払家賃	90,000				90,000			
支払手数料	35,000				35,000			
	9,220,000	9,220,000						
有価証券売却(損)			15,000		15,000			
(未収入金)			435,000				435,000	
雑(損)			5,000		5,000			
減価償却費			150,000		150,000			
貸倒引当金繰入			4,000		4,000			
(未収)利息			3,750				3,750	
(未払)給料				10,000				10,000
(前受)地代				3,400				3,400
当期純(損失)						99,450	99,450	
			1,406,150	1,406,150	3,879,000	3,879,000	5,578,200	5,578,200

□につき3点、■につき2点である。

【3 級総評】

全体的には基本から標準レベルの難易度の問題でした。合格答練や問題集でアウトプット練習を本試験対策として行っていれば、第 1・3・5 問は、比較的スムーズに解答することが出来たと思います。ここで、しっかりと得点を積上げることができたかが最大のポイントです。第 2・4 問は受験生にとっては厳しい内容も含まれていたため、短時間で効率よく解答して、半分程度の得点を積上げておくことができたかがポイントです。

簿記の学習では、仕訳、勘定記入、試算表作成、財務諸表作成が最重要論点ですが、日頃から、1 年間の流れを意識しながら、仕訳・転記・集計をすることで、基本的な部分の理解をすることが重要です。

【解説】

第 1 問

仕訳に関する問題です。勘定科目の指定があるので誤字等がないよう、正確に記入するように注意しましょう。

1. 店主の個人的な支出

店主の業務上の出張に要した費用は、旅費交通費で処理します。支払った金額に個人的な用途での旅行宿泊代金が含まれている場合は、資本の減少取引として処理します。本問では、指定された勘定科目に引出金がなく、資本金があるため、資本金で処理します。

2. 商品券による売上

売上代金のうち、他店が発行した商品券の受取分は他店商品券で、当店が発行した商品券の受取分は商品券で処理します。なお、他店商品券は、商品券を発行したお店に代金を請求できる権利を意味するので資産であり、また、商品券は、商品券を発行した際に生じた商品を引渡さなければならない義務を意味するので負債です。

3. 手形の割引

手形を割引いたときは受取手形を減少させ、利息相当額（割引料）は手形売却損で処理します。また、手取金は、当座預金の増加として処理します。

$$\text{利息相当額} : \text{¥}800,000 \times 0.9\% \times \frac{73\text{日}}{365\text{日}} = \text{¥}1,440$$

4. 固定資産の購入

購入した固定資産の取得原価の算定上、仲介業者に支払う土地の購入手数料などの付随費用は、購入代価に加算します。また、商品売買以外の取引で代金を後日支払うこととした場合には、未払金で処理します。

5. 源泉所得税の納付

給料から源泉徴収された所得税は、所得税預り金で処理します。なお、給料支払い時には、下記の仕訳をしています。

(借) 給料	×××	(貸) 所得税預り金	×××
		当座預金など	×××

第145回 解説

第2問

勘定記入に関する問題です。基本的には、期首から期末までの記入の流れに基づいて、日付順に、支払利息勘定および未払利息勘定へ記入をします。

1. 1月1日

(借) 普通預金	1,200,000	(貸) 借入金	1,200,000
----------	-----------	---------	-----------

支払利息、未払利息が仕訳に使われていないので、勘定への転記はありません。

2. 6月30日

(借) 支払利息	9,000	(貸) 普通預金	9,000
----------	-------	----------	-------

取引先からの借入金について、利息を計算して仕訳します。これを支払利息勘定の借方1行目に転記します。

$$\text{支払利息} : \text{¥}1,200,000 \times 1.5\% \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}9,000$$

3. 9月1日

(借) 普通預金	2,000,000	(貸) 借入金	2,000,000
----------	-----------	---------	-----------

支払利息、未払利息が仕訳に使われていないので、勘定への転記はありません。

4. 12月31日

借入先ごとに、借入金の支払利息の計算をします。また、決算にあたり、支払利息の見越し計上と勘定の締切りをします。

(イ) 期中取引：利息支払い

(借) 支払利息	9,000	(貸) 普通預金	9,000
----------	-------	----------	-------

取引先からの借入金について、利息を計算して仕訳します。これを支払利息勘定の借方2行目に転記します。

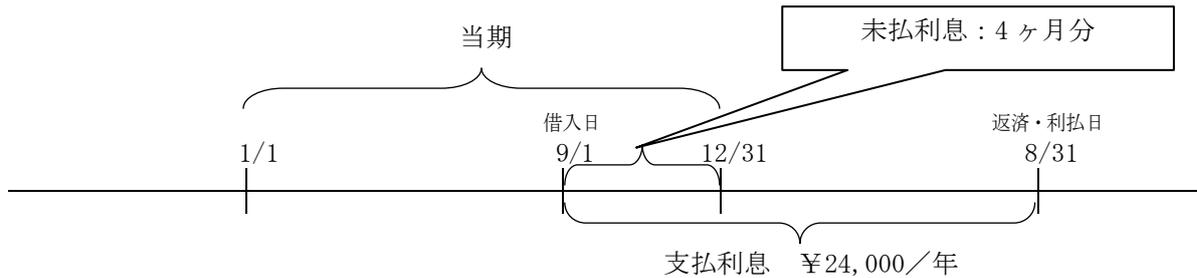
$$\text{支払利息} : \text{¥}1,200,000 \times 1.5\% \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}9,000$$

(ロ) 決算整理：支払利息の見越し

(借) 支 払 利 息	8,000	(貸) 未 払 利 息	8,000
-------------	-------	-------------	-------

銀行からの借入金について、支払利息を見越し計上します。これを支払利息勘定の借方3行目と未払利息勘定の貸方1行目に転記します。

$$\text{未払利息} : \text{¥}2,000,000 \times 1.2\% \times \frac{4\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}8,000$$



(ハ) 勘定の締切り

支払利息は費用の勘定なので、期末にその残高¥26,000を損益勘定の借方に振替えます。以下の損益振替仕訳を支払利息勘定の貸方1行目に転記します。

〈損益振替仕訳〉

(借) 損 益	26,000	(貸) 支 払 利 息	26,000
---------	--------	-------------	--------

資産・負債・純資産は、期末にその残高を次期に繰越します。未払利息勘定は負債の勘定であるため、12月31日には未払利息勘定の借方に「次期繰越」と記入されます。二本線で当期の勘定を締切った後の1月1日は、次期の期首を意味しています。未払利息勘定の貸方に「前期繰越」と記入します。

以上より、支払利息勘定、未払利息勘定は次のようになります。

支 払 利 息		未 払 利 息	
6/30 普通預金 (9,000)	12/31 (損 益) (26,000)	12/31 (次期繰越) (8,000)	12/31 (支払利息) (8,000)
12/31 普通預金 (9,000)			1/ 1 前期繰越 (8,000)
〃 未払利息 (8,000)			
<u>(26,000)</u>	<u>(26,000)</u>		

第145回 解説

第3問

月中取引高欄がある合計試算表作成の問題です。まず、[12月中の取引]を仕訳します。次に、仕訳をもとにして、勘定科目ごとに[12月中の取引]だけの借方合計と貸方合計を計算し、12月中の取引高欄に記入します。最後に、勘定科目ごとに、11月30日の合計に12月中の取引高を加えて、12月31日の合計に記入します。

[12月中の取引]

5日	(借)	仕	入	451,000	(貸)	前	払	金	70,000				
						買	掛	金	380,000				
						現		金	1,000				
8日	(借)	売	上	10,000	(貸)	売	掛	金	10,000				
10日	(借)	当	座	預	金	190,000	(貸)	受	取	手	形	190,000	
12日	(借)	未	払	金	79,000	(貸)	当	座	預	金	79,000		
13日	(借)	受	取	手	形	40,000	(貸)	売		上	100,000		
		売	掛	金	60,000								
		発	送	費	2,000		現		金	2,000			
15日	(借)	水	道	光	熱	費	40,000	(貸)	当	座	預	金	40,500
		通	信	費	500								
17日	(借)	買	掛	金	90,000	(貸)	支	払	手	形	90,000		
19日	(借)	支	払	手	形	140,000	(貸)	当	座	預	金	140,000	
20日	(借)	支	払	家	賃	21,600	(貸)	当	座	預	金	21,600	
21日	(借)	仮	払	金	30,000	(貸)	現		金	30,000			
22日	(借)	受	取	手	形	50,000	(貸)	売	掛	金	150,000		
		当	座	預	金	100,000							
24日	(借)	旅	費	交	通	費	28,000	(貸)	仮	払	金	30,000	
		現		金	2,000								
25日	(借)	給		料	300,000	(貸)	所	得	税	預	り	金	30,000
							当	座	預	金	270,000		
27日	(借)	当	座	預	金	350,000	(貸)	売		上	600,000		
		売	掛	金	252,000		現		金	2,000			
29日	(借)	貸	倒	引	当	金	50,000	(貸)	売	掛	金	50,000	

第4問

文章の空欄補充の問題です。適切な語句を補うと、次のような文章になります。

- 費用となる税金と、費用にならない（店主個人が負担すべき）税金に関する空欄補充
すでに事業で使用している自動車にかかる自動車税を納付した場合の仕訳の借方は（①租税公課）勘定を用いる。それに対し、個人企業の事業から生じた所得にかかる所得税を納付した場合は（②引出金）勘定を用いる。
- 資本的支出（資産として処理）と収益的支出（費用として処理）に関する空欄補充
建物の機能の回復や維持のために修繕を行った場合の仕訳の借方は（③修繕費）勘定を用いるが、修繕により機能が向上して価値が増加した場合は（④建物）勘定を用いる。

第 5 問

精算表の作成問題です。まず、未処理事項および決算整理事項について修正記入欄に記入します。次に残高試算表欄の金額に修正記入欄の金額を加減算し、収益・費用に属するものは損益計算書欄に、資産・負債・純資産に属するものは貸借対照表欄に記入します。

未処理事項・決算整理事項の仕訳は次のとおりです。

1. 有価証券の売却

有価証券を売却したときは、売却価額と帳簿価額との差額を有価証券売却損益とします。なお、帳簿価額は、精算表の残高試算表欄より求めます。また、売却代金は後日受取るため未収入金で処理します。

(借) 未収入金	435,000	(貸) 有価証券	450,000
有価証券売却損	15,000		

有価証券売却損益： $\text{¥}435,000 - \text{¥}450,000 = \Delta \text{¥}15,000$ (売却損)

2. 売掛金の回収

当期に未処理であるため、適切な仕訳を行います。

(借) 普通預金	40,000	(貸) 売掛金	40,000
----------	--------	---------	--------

3. 現金過不足・仮受金の消去

期末における現金過不足と仮受金の残高を取り消しますが、問題文の指示により両者を相殺して、差額を雑損益として処理します。

(借) 仮受金	30,000	(貸) 現金過不足	35,000
雑損	5,000		

雑損： $\text{¥}35,000 - \text{¥}30,000 = \text{¥}5,000$

4. 売上原価の算定

期首商品棚卸高を繰越商品勘定から仕入勘定に振替えます。そして、期末商品棚卸高を仕入勘定から繰越商品勘定に振替えます。これにより仕入勘定の決算整理後残高は売上原価となります。

(借) 仕入	370,000	(貸) 繰越商品	370,000
(借) 繰越商品	340,000	(貸) 仕入	340,000

5. 固定資産の減価償却

(借) 減価償却費	150,000	(貸) 備品減価償却累計額	150,000
-----------	---------	---------------	---------

備品の減価償却費： $\text{¥}1,200,000 \div 8 \text{年} = \text{¥}150,000$

6. 貸倒引当金の設定

2. の処理で売掛金が減少しています。修正後の売掛金の残高から、貸倒見積額を計算します。貸倒引当金勘定の残高が貸倒見積額になるように不足分を繰入れます。

(借) 貸倒引当金繰入	4,000	(貸) 貸倒引当金	4,000
-------------	-------	-----------	-------

貸倒見積額： $(\text{¥}590,000 - \text{¥}40,000) \times 2\% = \text{¥}11,000$

貸倒引当金繰入： $\text{¥}11,000 - \text{¥}7,000 = \text{¥}4,000$

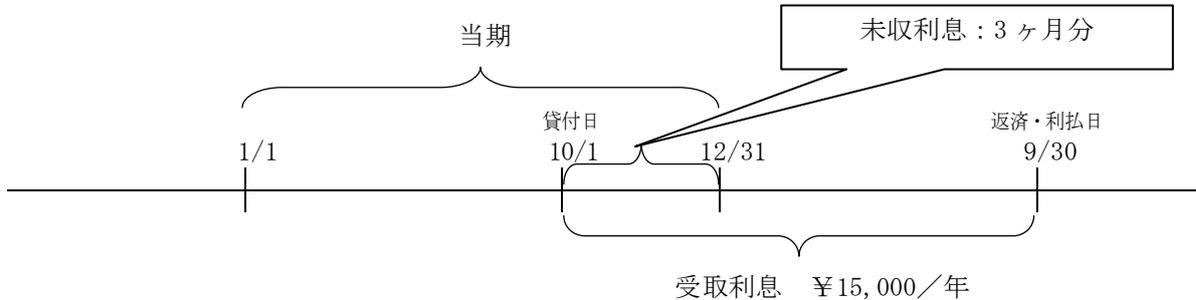
第145回 解説

7. 受取利息の見越し

貸付金の受取利息は返済時に全額受け取ることが出来るので、当期分の受取利息を見越し計上します。

(借) 未 収 利 息	3,750	(貸) 受 取 利 息	3,750
-------------	-------	-------------	-------

$$\text{未払利息相当額} : \text{¥}500,000 \times 3\% \times \frac{3\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}3,750$$



8. 給料の見越し

(借) 給 料	10,000	(貸) 未 払 給 料	10,000
---------	--------	-------------	--------

9. 受取地代の繰延べ

受取地代は、直近の奇数月である11月末日に、むこう2ヶ月分の12月分、翌年1月分を受け取っているため、1か月分の地代家賃を繰延べます。

(借) 受 取 地 代	3,400	(貸) 前 受 地 代	3,400
-------------	-------	-------------	-------

$$\text{前受地代} : \text{¥}6,800 \times \frac{1\text{ヶ月}}{2\text{ヶ月}} = \text{¥}3,400$$

10. 当期純損失の記入

損益計算書で貸借差額を算定すると、当期純損失¥99,450が求められます。当期純損失は「損益計算書欄の貸方」と、「貸借対照表欄の借方」に記入します。

当期純利益の場合と当期純損失の場合では、損益計算書欄と貸借対照表欄の記入方法が逆になります。以下の表を参照して確認しておきましょう。

	損益計算書欄	貸借対照表欄
当期純利益	借方	貸方
当期純損失	貸方	借方